

持続可能な伊野のまちづくり

1 「伊野で子育てをしたい」ー魅力いっぱいの教育ー

- (1) 伊野小学校の支援
 - ①伊野小学校5・6年生の修学旅行経費の一部を助成する。
 - ②夏休みのプール開放日を増やしたり、敷地内の草刈や剪定のための人的支援を行う。
 - ③伊野小学校の環境教育等のためにりんご山整備を行う。
 - ④国際的視野を広げるために、国際ワークキャンプを実施する。
- (2) 学校と地域の連携力アップ
スポーツや伝統文化継承など多様な活動を行っている地域の諸団体代表が集まる「伊野の子育てを考える連絡会議」を開催し伊野の教育ビジョンについて検討する。
- (3) 伊野バージョンの発展
「伊野の自然を舞台に子どもの遊びを創る」ことを目的とした島根大学学生と伊野地区との協働事業を、伊野小学校等との連携を深め、新たな体制をつくりだし、効果を上げる。
- (4) 小中学生の学力向上
 - ①高校受験対策学習会
伊野バージョン学生の協力を得て、高校受験対策の学習会を開催する。
 - ②サマースクール
夏休みに、小中学生の勉強会を開催する。

2 みんなで取り組む「伊野のまちづくり」

- (1) 情報発信・課題共有
 - ①ホームページ創設等、SNS 活用による情報発信・受信体制をつくりあげる。
 - ②町内会長会や常会等でわかりやすい伝達方法を工夫する。
- (2) まちづくりを推進する組織
伊野暮らし魅力化プロジェクト準備会で提案されている課題を具体化するとともに、女性や若者の参加を拡大する。
- (2) 各団体が「持続可能な伊野づくり」を視野に入れた取組を行う
- (3) 自治協会・町内会・各種団体の組織のありようについて検討を行う
 - ①自治協会役員選出の方法と課題について検討する
 - ②各団体の課題と解決の展望について検討を行う
 - ③自治協会財政の見直しを行う
- (4) まちづくりについて考える研修会を開催するなど、多くの地域住民が伊野の将来ビジョンを考える機会をつくる。

3 防災・危機対応-「安心・安全のまちづくり」-

- (1) 防災・減災対策
 - ①原子力災害対応
伊野独自の避難訓練を実施する。また、避難先となっている大社町荒木地区との交流を進める。
 - ②土砂災害対応
地区災害対策本部機能を強化するため、具体的な災害を想定した対応策を研究する。
- (2) ファースト・レスポnder制度
研修会を開催し、隊員の能力向上を図る。
- (3) 防災・減災のための情報インフラ整備
自治協会のHP やフェイスブックを活用した災害情報の発信について研究する。

**毎年、10人の子どもが生まれる伊野をつくりましょう。
不便だけど、ほんものの豊かさを味わえる伊野をつくりましょう。**

4 インフラ整備

- (1) 道路整備
 - ①第1次10カ年計画(H20~29)で着手されなかった課題路線
伊野地区道路建設事業推進委員会を開催し、課題路線が出雲市道路整備10カ年計画に盛り込まれるように、市との折衝を強化する。
 - ②主要地方道斐川一畑大社線(地合工区)
期成同盟会等、関係組織との連携を密にし、県への働きかけを強化し、早期実現を図る。
- (2) 伊野川井堰改修事業
H28～31年度実施予定の伊野川井堰改修について地元の条件整備を整えるとともに、県との連絡を密にする。
- (3) 森林整備
りんご山を「教育の森」として再生するため、歩道周辺の伐木や山頂付近の間伐を行う。

5 農業振興

- (1) 伊野いちの発展
お客様との交流、常設店舗開設等について検討し、発展のための具体化を模索する。また、伊野小学校の参加を得て、地域づくりと学校教育の相乗効果を高める。
- (2) 農業課題の研究
伊野の農業が直面する課題について検討し、農業の発展を図るため、関係機関と連携して農業問題について考える機会をつくる。

6 人口減少対策・交流人口拡大

- (1) 他地域に住む伊野地区出身者との交流
 - ふるさと情報の発信
 - 伊野ふるさと会員制度
- (2) 空き家活用による田舎暮らし体験
- (3) 伊野いちや国際ワークキャンプ、ほたるの里観賞会等による交流人口拡大

7 福祉のまちづくり

- (1) 安心カード(緊急時の連絡先を記載したもの)作成
- (2) 高齢化に伴い、買い物・交通・医療等にどのような課題が深刻化してくるのか、どのような対応策が必要かを研究する。